

みんなで作る冬の世界

趣旨 様々な体験活動を通して、身近な自然や体験活動に興味・関心を広げ、積極的に自然に関わろうとする態度を養う。

企画運営のポイント

1. 事業のねらいと冬ならではの「季節性」を活かした活動を意識し、大学生ボランティアが企画・運営を行った。
2. 自主企画ボランティアと担当職員との打合せや実地踏査を何度も重ね、親子で自然に親しみ、学びが深まるような体験活動を設定した。

期日 令和8年2月15日（日）

対象 幼児（4歳以上）～小学6年生とその保護者

人数 3家族 計12名
（内訳：幼児1名、小学生5名、中学生1名、保護者5名）

内容

2月15日（日）【運営：自主企画ボランティア（大学生5名）】

- ① 開会式
- ② 日高の冬と友達になろう！
- ③ 小さな宝物を作ろう！スノードームづくり！
- ④ 閉会式

参加者の声

- ・雪を積むのが大変だったけど、掘るときの作業がとても楽しかった。家庭でも実践してみたい。
- ・かまくらの中でお昼ご飯を食べたのが楽しかった。
- ・普段できないことを体験させていただき、子どもたちも大満足でした。
- ・楽しくて思い出に残る企画だった。

企画・運営した大学生ボランティアの声

- ・企画を『提供』するのではなく、『一緒に行く』ことで楽しい気持ちを参加者と一緒に共有することができた。
- ・企画の楽しさ、難しさを実感しながら臨機応変に事業運営をすることができた。
- ・子どもたちとの関わりやボランティア同士の協力など学びになった。次に繋げていきたい。
- ・9月から企画準備をしてきて当日、実際に指導してとても楽しかった。今回の経験や反省を生かし、次年度も自主企画に参加したい。

【成果】

- ・事業アンケートにおいて、「雪を積むのが大変だったけど、掘るときの作業がとても楽しかった。家庭でも実践してみたい。」「普段できないことを体験させていただき、子どもたちも大満足でした。」という声から、体験活動を通して、日高の冬の自然を満喫するとともに、自然に対する興味・関心を広げるきっかけとなった。
- ・事業を企画した大学生ボランティアからは、「企画の楽しさ、難しさを実感しながら臨機応変に事業運営をすることができた。」「子どもたちとの関わりやボランティア同士の協力など学びになった。次に繋げていきたい。」という声があり、大学生のボランティア活動の実践力向上につながる場となった。
- ・9月から大学生ボランティアと担当職員との打合せや実地研修（雪洞づくり）を重ねたことにより、学生ボランティア企画力向上につながった。

【課題】

- ・雨天時や積雪状況に合わせて柔軟に対応できるように事前に準備する必要がある。



令和7年度国立日高青少年自然の家事業「ボランティア自主企画事業」

みんなで冬の思い出いっぱい作るぞー!

大学生と雪遊びをしよう!

一緒に日高の自然を体験しませんか?

2026 02.15 日 9:30~15:45

午後からはみんなでスノードームづくり!

国立日高青少年自然の家のボランティアが企画・運営を行います。

※詳細は開催要項に記載

